

Dear Chiharu

チハルさん、こんにちは！

この前のイベント、楽しませてくださってありがとうございました。プロデュースする側の私はすっかりただの客になっていて、おいしい思いをしたのでした。

お好きな漫画やアニメというのはまあ想像どおり…というか、たくさん通ってこられたのが面白くて（笑）それ以上に、「『パン屋は朝早いよ』と言われて、すぐ諦めました。」がツボに入ってしまった、そんなかわいらしいままでいてほしいなあ…と思うのでした。

チハルさんの本やデザインとの出会いと結びつきも、いかにもあなたらしいもので、ちょっと安心しました。絵を描くのが好き、雑誌をつくってみたい…といろいろ通って今に至るといのが、とてもナチュラル。

チハルさんの素晴らしいところのひとつは、「自分の心と身体で試行錯誤すること」ですね。それって明らかに痛みを伴うわけですが、こんなに自分の人生を自分で生きようとする在り方はないのだから。私が一番、あなたを尊敬するし、シンパシーも感じる理由がここかもしれませぬ。

---

さて、私が物書きだけでなく、現在のようなお仕事をやるようになったきっかけについて、でしたね。

物書きは18歳の頃からしているのですが、それとともにずっと走っていたのが「プロジェクトを始めて、走らせて、終結させる」経験とスリルでした。



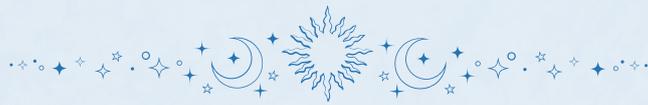
*manami \* chiharu*

交換日記 一宙一

き  
つ  
か  
け  
は  
地  
味

2025.2.28





私は学生生活を少し長めに楽しんでしましまして、研究者になる道も、市場の関係で難しそうだということが本格的にわかってきて、それでも研究室に籍を残すような、未練タラタラの20代。内定取り消しを経て、なんとか医療業界に入り込みました。

病院の事務総合職というのは、何でも屋さんです。受付もするし、看護師さんに叱られながら、ナースエイドのようなこともするし、秘書にもなります。有資格者のヒエラルキーのなかで最下層の事務職員だからこそその風当たり。異動もたくさんして、歯科にも行ったし、研修医育成もしたし、介護や障害福祉の仕事もしました。

どの部署にいてもずっと私が担ってきたのが、「コミュニケーションのハブになること」と「企画」。経営企画専属になったときは本当に楽しくて、時計の針が動くのを忘れて。災害が起きたり、組織が壊れたりする胃の痛さを知ったりしましたが、企画って花形なんかではなく地味で、「関係性が肝」だと大怪我しながら学びました。

それでも、楽しかったの。プロジェクトで「人が集まって、いいものをつくる」それこそがよるこびだったのです。だから、企画や集客の前に「いい関係、作りませんか」と言い続けています。そういえば、PRこそずっと、私の任務のひとつでした。

チハルさんにとって、つらさもあるけれど「やっぱり好き」なことってどんなことですか。涙が出ない範囲で…お聞かせくださいね。

From Manami



しつもん  
コーナー

チハルさんからの質問の答え Q 子どもの頃の将来の夢は？

A. 記憶しているかぎりいちばん古い夢は「絵本をつくる人になりたい」。絵本作家だったのか、書店員さんなのか…わかりません。

チハルさんへの質問

Q. 最近の雑誌でお好きなものってありますか。できれば、紙面で！私がいまも昔も好きなのは、BRUTUS。正座して読みたい雑誌です。